

2016年
12月7日
水曜日

●退任教授最終チャペル講話／根岸 紳 教授（経済統計学）

関学の風に吹かれて

私は18歳で関学経済に入学して以来、68歳の今、甲山を見ながら実に半世紀を過ごしたことになる。学生時代、ボブ・ディラン（今年度ノーベル文学賞受賞、ディランがノーベル賞をもらうなんて当時想像もしなかった）の「風に吹かれて」をはじめアメリカのフォークソングやカントリを歌うサークルに入っていたこともあって、チャペルで讚美歌を歌うのが楽しみだった。もともとチャペル出席の本当の理由はキリスト教の点数に関係すると思っ出ていたのだが、しかしそれは間違っていた。なぜならもらったキリスト教の点数は50点台であった。教員になってから、チャペル講話を数回受け持った。鉄腕アトム、鉄人28号、ゲゲゲの鬼太郎で育った私は、人間とロボット、人間と妖怪の関係について興味を持っていた。ま

た息子たちとよくアニメを見ていたので、アンパンマン、ドラえもん、デイズニアアニメに親しんでいた。そしてデジタルの時代に移り、このところ人工知能AIをもったロボットが登場してきた。ロボットだけのホテルが登場し、ペッパーくんにも街の中でよく出会う。このAIロボットの登場により、鉄腕アトムやアンパンマンが現実味を帯びてきた。みなさんが将来仕事に就いたとき、パソコンの代わりにロボットがあなたの仲間になり仕事場に多く登場しているだろう。

チャペル講話で、バイキンマンの似顔絵を黒板に書いたことがある。アンパンマンのアニメをみていたとき、バイキンマンのことが非常に気になったからである。彼はいろいろなモノを作るがそれは公害を引き起こすものばかりだし、ドキンちゃん

（彼女はしょくばんまんが好き）をこよなく愛しているが片思いである。バイキンマンはきわめて人間的だと親しみを覚えたのである。そして人間にはアンパンマン的な面とバイキンマン的な面があるのではないかと、チャペル講話で問題提起をさせてもらった。

次にドラえもんとのび太のこともチャペル講話で取りあげた。のび太があまりにもドラえもんに頼りすぎるのが気になった。将来、人間もドラえもんのようなAIロボットに頼りすぎるようになるのではないか。

AIロボットを人間の能力拡張に使っていければそれは杞憂になるのだが。でも大事件が起こる。それはのび太がみんなのアイドルであるしずかちゃんと結婚するのである。理由をいろいろ調べてみると、あの頼りないのび太さんには私が付いてい

なければだめになるだろうと思い、結婚を決意するというのがあったが、そのほかにのび太のあふれる優しさにひかれてというのがあり、私はこちらの理由をとりたい。のび太は、冬、だれかが池に落ちていたのを飛び込み助けるところをしずかちゃんが見ていた。本当の優しさをのび太はもっている。そこにしずかちゃんは見つかる。人間は、本来、相手を思いやるほんとうの優しさにあふれているのではないだろうか。

私は1995年度1年間、オーストラリアのメルボルンにあるモナッシュ大学に留学した。メルボルンで教会で忘れられない経験を2つした。郊外と都心の教会である。モナッシュは郊外にあるので、私たちも郊外にあるGlen Waverleyに庭の広い自然豊かな一軒家を借りていた。長男が3歳であったので、近隣の幼児

のためのプレイグループ2つに家族3人で通い、息子と一緒に歌ったり踊ったりしていた。そのうちの一つが郊外の教会Glen Waverly Uniting Churchである。3月末で帰国しなければならぬことを前もって伝えていたこともあり、プレイグループでの私たち家族最後の日、長男の写真がいつぱいの息子限定の手作り卒園アルバムを贈呈され、家族で感激したことを思いだす。二つ目は都心の教会St. Michael's Uniting Churchの思い出である。妻の弟夫婦はメルボルンで結婚式をあげることになった。しかし義理の父親の心臓チェックがはいり親は出席できなかった。5年後、式に出席できなかった義父を伴い私たち家族はメルボルンへ向かい、式を挙げた教会を訪問した。事情を伝えたところ、快く教会の中に招いてくれ、そのうえ結婚式のリハーサルよろしくオルガン演奏までしてくれたことは義父への最高のプレゼントになった。

チャペルでは、ロボットと人間の関係を考察することによって、人間とは何なのか考える機会を持った。最近特に人間に近づいているAIロボットをみてますます考えるようになった。また、関学に長くいたおかげで教会に対して親しみをもつよう

になり、留学時代、教会で忘れることにできないふたつの経験をし、家族の財産となった。

私は50年間、関学の風に吹かれながら、苦しいこともあったけれども全般的には学生時代、教員時代とも「経済学」と「統計学」を楽しみながら過ごすことができた。関学経済に感謝しています。ありがとうございます。

関学経済で学んでいるみなさん。日頃の講義、ほかのゼミや他大学のゼミとのディベート、いろいろなところでの研究発表、これらはすべて中間投入です。これらの中間投入を使って付加価値を付け加えて卒業論文を作成してください。経済学部に学ぶ全員が論文に挑戦してほしいと思います。たとえ、ゼミに属していなくとも、論文を書いたことは関学経済で過ごした足跡になりますし、その後の人生の糧になります。

最後に学生の皆さんにメッセージを送ります。1933年、北原白秋は上ヶ原に立ち、作詞した関学の校歌の中に「風、光、力」があります。「風」、風のようにさわやかに舞い、「光」、光のように明るく輝き、「力」「若きは力ぞ」（校歌の一節）で関学というステージでいろいろなことに挑戦し躍動してください。期待しています。